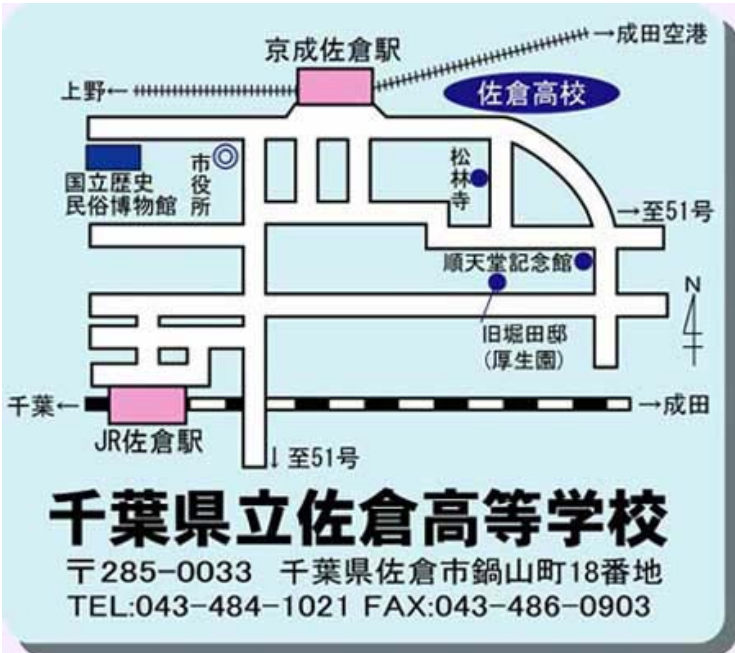


観光社会資本の事例

テーマ	希少な明治期の洋風木造建築物 佐倉高等学校記念館
<p data-bbox="153 327 405 360">【施設の状況写真】</p> <div data-bbox="497 383 1002 815" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="153 853 1422 1032">記念館の外観は桜の花びらを型取った透かし彫りを持つ玄関を中心に左右対称の構成になっており、特徴的なドーム屋根がバランス良くデザインされている。ドーム下の窓の上部にあるペディメント(屋根の妻側に見られる三角形の部分)など豊かな意匠があり、明治時代後期の洋風建築の特徴をよく留めている。</p>	
<p data-bbox="153 1095 405 1128">【施設の利用写真】</p> <div data-bbox="226 1135 735 1480" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="825 1140 1358 1505" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="153 1525 1422 1659">見学をする人々。建物内部は現在も学校として使用されているため、自由に立ち入ることはできませんが、特徴ある外観や建物の建設と同時に整備された中庭を見学するために多くの人が訪れています。</p>	
<p data-bbox="153 1720 549 1753">【観光資源としての利用状況】</p> <p data-bbox="153 1765 1422 2047">佐倉高等学校記念館は全国的にも数少ない明治期の洋風木造校舎として、歴史的、デザインの側面から高く評価されている建造物で、平成 17 年には国の登録有形文化財に登録されました。また、同学校内にある地域交流施設には、藩校の時代から伝わる蘭和辞典「ハルマ和解(わけ)」、「ズーフ・ハルマ」など、多数の貴重な蘭学書、医学書の書籍からなる千葉県指定有形文化財の「鹿山文庫」が収蔵されており、一部は展示公開されており、多くの方に利用されています。</p>	

テーマ	希少な明治期の洋風木造建築物 佐倉高等学校記念館
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 佐倉高等学校記念館</p> <p>所在地 佐倉市鍋山18番地</p> <p>事業名</p> <p>事業主体 佐倉市文化課</p> <p>事業期間 明治43年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>佐倉高等学校記念館は明治43年に佐倉藩最後の藩主、堀田正倫の援助を受け、旧佐倉中学校の本館として建設されました。昭和49年に新校舎が建設されるまで教室として使用され、多数の著名人がこの校舎を実際に使用していました。現在は教室としては使用されていませんが、進路指導室、保健室などを含む管理棟として使用されています。</p> <p>記念館は全国的にも数少ない明治期の洋風木造校舎であり、長い歴史を刻む地域の象徴的な建造物として卒業生や在校生だけでなく広く観光客に愛されており、平成17年に国の登録有形文化財に登録されました。</p>	
<p>【位置図】</p>  <p>千葉県立佐倉高等学校 〒285-0033 千葉県佐倉市鍋山町18番地 TEL:043-484-1021 FAX:043-486-0903</p>	
<p>関連ホームページ</p> <p>http://www.chiba-c.ed.jp/sakura-h/ 佐倉高等学校</p> <p>http://www.city.sakura.lg.jp/shisetu_guide/sakura_h_school/sakura_h_school.htm</p> <p>佐倉市商工観光課</p>	